

虚偽説明の復水器調査

福島1号機 原子力規制委が方針

原子力規制委員会は13日、東京電力福島第一原発1号機の調査をする方針を決めた。1号機の原子炉建屋には非常用復水器がある。この機器を国会事故調査委員会が現地調査しようとしたところ、東電が虚偽の説明で調査を阻んだ。田中俊一委員長はこの日の会見で、「遅くない時期に調査をスタートしたい」と述べ、具体的な検討に入ったことを明らかにした。

非常用復水器は、破損の原因が地震の揺れによるものか津波によるものかで国会事故調と政府事故調の見解が異なり、耐震基準が十分だったのかが焦点になっている。田中委員長は「予断を持たずに調査する。福島島の教訓を十分にくみ取るためにも（調査が）必要で、どういったポイントを押さえるべきかを議論している」と述べた。

しかし、1号機の原子炉建屋内は依然として毎時数十センチベルトと、高い放射線量の場所がある。この

ため、現場で長時間調査することが難しい。調査の時期や方法を今後詰める。

東電は昨年2月、非常用復水器の調査をしようとした国会調査委のメンバーに、原子炉建屋の中は「今

は真っ暗」として調査が難しいと虚偽の説明をした。

実際は、建屋に明かりが差し、照明もあった。国会事故調査委はこの説明を受け、調査を断念した。

(西川迅)